

NEW ヒライ信

VOL.2
NO. 85
(第185号)



がくしゅう 楽習塾 塾長 平井 幸雄 たかお

hiraisin@par.odn.ne.jp

洒落た看板「判じ物看板」 お洒落な看板娘 お看板



いろいろなところで目にする、看板や動画広告は江戸に原点があったという。江戸の商人がいかにも多くの客を自分の店に引き込むか、看板は商人の命で、看板に様々な工夫を凝らした。中でも特に江戸っ子に人気があったのが「判じ物看板」です。その人気の秘密は洒落と粋。

例えば鬼の看板は、薬屋のもの。この薬があれば「鬼に金棒」という意味があったそうです。また木馬の人形を掲げた店もありました。「馬」と「うまい」をかけたもので、餅屋や饅頭屋で使われました。多くの人々に店や商品を覚えてもらうため、知恵を絞るのは江戸時代も今も変わらないのです。

そんな「江戸の看板」や「洒落た看板」をあげてみました。

 <p>薬屋の看板</p> <p>はらいたのくすり・熊胆木香丸（ゆうたんもっこうまる） 高価な腹痛の薬（熊の胆汁） この薬を飲めば「鬼に金棒」でよく効くと表現したもの。</p>	 <p>現在の商標</p> <p>薬屋仁丹の看板</p> <p>梅毒薬「毒滅」の商標で、森下南陽堂のシンボルでもあったピスマルク像がさまざまに凶案化、デフォルメされ、日露戦争当時大衆のあこがれだった大礼服姿になった。現在も、森下仁丹の商標にもなっている。</p>	 <p>現在の商標</p> <p>薬屋の看板</p> <p>「中将湯」象形看板（吊下看板） 現・ツムラの創業者・津村重舎（じゅうしゃ）の母の実家・藤村（奈良県）に、代々伝わる婦人薬です。その名は伝説上の人物「中将姫」に由来することから、中将姫が象られています。</p>
 <p>饅頭屋</p> <p>荒馬の看板は、この饅頭は「あら、うまし！（美味し）」の駄洒落です。</p>	 <p>中央は虎 右上に洲浜と羊羹を配し、下の円形は饅頭を象っています。</p> <p>虎屋の看板 虎屋の当主は毘沙門天を信仰。その毘沙門天は寅の年・寅の月・寅の日・寅の刻に生まれたところから「虎（寅）」を屋号とした。</p>	 <p>湯屋の看板 銭湯を江戸では「湯屋」上方では「風呂」といった。「湯入る」（ゆいる）と「弓射る」をかけた洒落です。板に「わ」で、湯がわいた。閉店時は「ぬ」いた</p>

芝居・寄席などで、一流の役者・落語家を「**大看板**」という。大正末期まで東京の寄席では、立て看板などに一流の人の芸名を他の人よりも大きく書く習慣であったところからいう。

居酒屋で、酔ってくだまき「俺（圓塾）はいずれ**大看板**になる！」と大ボウを吹いた。その**看板娘**に「あなたは**看板倒れ**、**看板が泣きますよ**」といわれた。それよりも「お客さん、もう**看板ですよ**」と追い出された。

看板は見てもすぐわかるよう、商品を象った「実物看板」(笠・傘屋、かもし屋、金箔屋、合羽屋、絵の具屋、麻屋など)。商品が小さいものは、それを拡大した「模型看板」(きせる屋、袋物屋、櫛、足袋屋、下駄屋、そろばん屋、扇屋、金物道具屋、帳面屋、煙草屋、将棋屋、八百屋など)。また、水物、粉物などを扱う酒屋、油屋、酢屋、葉茶屋(お茶の葉を売る店)などはその容器。生薬(きぐすり)屋、砂糖屋は袋物。銭両替屋は寛永通宝や天保銭など貨幣を象った看板にしていた。

 <p>たばこ屋</p> <p>模型看板(吊下看板) 文字が読めない人でもひと目で分かる、たばこの葉をかたどった模型看板です。このたばこ屋の看板は、江戸時代に北越地方で見られた看板の一つです。</p>	 <p>喫煙具店</p> <p>模型看板(吊下看板) 煙管を拡大して板に取り付けた看板です。江戸後期、煙管を持つことが一種のステイタスだった。それらを扱う店の看板も手が込んでいた。</p>	 <p>筆屋</p> <p>模型看板(吊下看板) 江戸中期は識字率が向上し、筆の需要も大幅に伸びました。筆屋の看板は、板に筆の形を盛り込んだものと、筆をかたどった木製丸彫りの2種類があった。</p>			
 <p>海苔屋の構成文字看板(掛看板) 「の」の中に、金色に彩色して小さな「り」の字に見立てが入った構成の文字看板は、江戸時代の海苔屋でよく使われていた。</p>	 <p>酢屋の象形看板(掛看板) 酢は当時、壺から汲んで量り売りしていたため壺をかたどったものが使われた。また、竹を編んだものを簀(す)ということから、小竹を編んだ判じ物看板も用いられていた。</p>	 <p>洒落看板 「鎌」「輪」「ぬ」で「かまわぬ」を表現した、江戸の洒落心と粋を感じさせる看板。これは武術道場のもので「見るだけなら構わなぬが、手合わせは御免こうむる」の意味。</p>			
 <p>桶屋の看板 「大」「風」という字が書いてあり「風が吹けば桶屋がもうかる」の洒落</p>	 <p>質屋の看板 歩が「と金」になると「金」になることから</p>	 <p>おかめの顔を下駄に象った下駄屋の看板。 げたげた笑う看板娘か?</p>	 <p>小間物屋(雑貨店)の模型看板 刷毛をかたどった木彫</p>	 <p>かつら(かすら)屋 町人髷の形を、楠の板に切り抜いてあります。</p>	 <p>床屋の看板</p>
 <p>錠前屋</p>	 <p>錠屋</p>	 <p>杉玉(すぎたま) 酒林(さかばやし)とは、スギの葉を集めてボール状にした造形物。日本酒の造り酒屋の軒先に吊るされる。緑の杉玉は新酒が出来たことを知らせる「搾りを始めました」である。やがて枯れて茶色がかってくる。この色の変化は、新酒の熟成の具合を物語る。元々は酒の神様に感謝を捧げるものであったとされる。今では、酒屋はもちろん縁起物として、料亭などでも飾られたりしています。</p>			